

事業概要

(令和元年度のまとめ)

目 次

I 概要	
1 京都府立図書館の概要	1
2 令和元年度の主な取組	1
3 令和元年度の主な利用状況等	5
II 図書館資料	
1 総資料・年間収集資料	6
(1) 総資料数	
(2) 年間収集資料数	
2 図書	6
(1) 資料数	
(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数	
(3) 視聴覚資料・障害者用資料数	
3 逐次刊行物	7
III 利用状況	
1 開館日	8
2 入館者	8
3 新規利用登録者	8
4 ホームページアクセス	8
5 個人貸出	8
(1) 貸出者数	
(2) 貸出図書数	
(3) 借受提供数	
6 複写利用	9
7 調査相談等	9
(1) レファレンス	
(2) 他館紹介状発行	
(3) 他館所蔵資料複写	
8 障害のある方へのサービス	9
(1) 対面朗読サービス	
(2) 点字・音声資料貸出	
(3) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」利用	
9 マルチメディア利用	10
10 図書館等への貸出	10
(1) 相互貸借	
(2) 機関貸出	
(3) 一括貸出（貸出文庫）	
11 学校への貸出	11

IV	事業	
1	市町村連携・市町村支援	12
	(1) 京都府図書館総合目録ネットワーク	
	(2) 連絡協力車	
	(3) 市町村立図書館等職員研修等	
	(4) 京都府図書館等連絡協議会	
2	学校支援等	17
	(1) 学校支援セット	
	(2) 来館型調べ学習等	
	(3) 子どもへの読書活動支援事業	
	(4) 不登校児童生徒読書活動支援事業	
3	調査研究・課題解決支援及び情報発信	19
	(1) 大学連携	
	(2) 京都市図書館との図書館の相互返却	
	(3) 館内見学会	
	(4) 図書館セミナー	
	(5) 講演会等	
	(6) 岡崎での開館110周年記念事業	
	(7) 資料展示	
	(8) ナレッジベース（知的な交流の場）での主な取組等	
	(9) 地域連携	
	(10) 行政支援サービス	
	(11) 広報	
V	施設等	
1	施設及び設備等	28
2	組織	29
3	経費	29
VI	沿革	
1	年表	30
2	歴代館長	34
	資料	35
	・京都府立図書館基本方針	
	・京都府立図書館資料収集方針	
	・京都府立図書館サービス計画（平成28年度～平成32年度）の概要（広報用資料）	

概 要

1 京都府立図書館の概要

京都府立図書館（以下「府立図書館という」）は、日本で最初の公立の図書館である「集書院」を源流とし、明治31年に京都御苑内に設立され明治42年に現在の岡崎の地に移転して以来、100年を超える長い歴史と伝統を刻んでいる。

平成7年の阪神・淡路大震災により建物が大きく損傷したため、ルネサンス風の外壁正面部を残して建替工事を進め、平成13年に地上4階地下2階建の新館を開館した。この間に、京都府の社会教育委員会議から市町村立図書館との役割分担を打ち出した「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について」の提言を受け、明治の雰囲気を残した現在の建物で、特に市町村支援と調査研究支援を中心とする取組を進めてきた。

平成27年度には新たな「京都府立図書館基本方針」及び平成28年度から5年間の「京都府立図書館サービス計画」（以下「サービス計画」という。）を策定し、変化の激しい社会において新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指して取組を進めている。

基本方針

- I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します
- II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます
- III 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

サービス計画の4年目に当たる令和元年度は、基本方針に基づき、図書館サービスのさらなる向上と様々な機関との連携の拡充に努めるとともに、これまでの成果と課題を踏まえ、次期サービス計画策定に向けた検討を始めた。

2 令和元年度的主要取組

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

令和2年1月以降、世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症は府立図書館の運営にも大きな影響を及ぼした。

京都府内の小・中・高・特別支援学校が国の要請に基づき、令和2年3月初旬から、一部の学校を除き臨時休校した。

このような中、多数の利用者が訪れる府立図書館において感染症拡大防止は喫緊かつ重要な課題であり、蔵書点検のための特別整理期間による休館（令和2年2月24日（月）～3月5日（木））に引き続き、令和2年3月6日（金）から3月23日（月）までの17日間、臨時休館した。令和2年3月24日（火）から閲覧席の削減（約50%）、手指消毒用アルコールの設置、手洗い・咳エチケットの励行、職員のマスク着用等の対策を講じた上で開館したが、

令和2年4月に入ると新規感染者が増えたため、4月4日（土）から再び臨時休館した。

学校が臨時休校となったため、自由に活動できず、ストレスを感じる子どももいたことから、子どもの居場所づくりが課題のひとつとなった。そのため、3月24日（火）の開館にあわせ、春休みの6日間を府立図書館が持つ機能を生かしながら、京都大学（院）の学生にサポーターとしての協力を得て「こども居場所づくり」を実施した。読書や学習支援に加え、「科学体験（光るツリー等物づくり）」「宇宙体験（4次元デジタル宇宙シアター）」など多彩なメニュー取り入れ、参加した子どもたちや保護者の方々から好評を得た。

(2) 府内の各図書館とのネットワークの強化

府内の市町村立図書館・読書施設（以下「市町村立図書館等」という。）との相互貸借図書の搬送や府立学校への図書の搬送等のために運行している連絡協力車について、平成29年度からは市町村立図書館等及び連携している大学図書館には週2回に、令和元年度からは全府立学校に巡回するなど拡充に努めた。その結果、相互貸借による図書の貸出は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館をしたが前年度並みの実績を確保した。

大学図書館との相互貸借については、新たに2大学と連携し11大学図書館（京都先端科学大学図書館（旧 京都学園大学図書館）・京都大学附属図書館・京都教育大学附属図書館・福知山公立大学メディアセンター・佛教大学附属図書館・京都府立医科大学附属図書館・京都工芸繊維大学附属図書館・京都府立大学図書館・花園大学情報センター（図書館）、京都ノートルダム女子大学図書館、京都橘大学図書館）となった。

さらにはすべての府立特別支援学校や京都府総合教育センター、同北部研修所が京都府図書館総合目録ネットワーク（以下「K-Libnet」という。）に参加したことなどから、K-Libnet参加機関は86機関から102機関（令和2年4月1日現在）となった。

(3) 京都市図書館との図書の相互返却

平成29年11月に開始した府立図書館で借りた図書を京都市図書館（20館）を通じて、また、京都市図書館で借りた図書を府立図書館を通じて返却できる「京都市図書館との返却本お預かりサービス」については、それぞれで借りた本を身近な図書館に返却できることから利用が拡大している。令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（3月）したが、年間で前年度比17パーセント増となり、初めて10,000冊を突破した。

(4) 市町村立図書館等の研修

平成30年度に、市町村立図書館等の職員が身近な会場で研修に参加できるよう、府立図書館の職員が講師として市町村立図書館等に出向いて行う出前研修を試行的に開始した。

令和元年度は市町村立図書館等のニーズを踏まえ出前研修を府内5か所で本格実施するとともに、府立図書館を会場とした研修も2回実施した。

(5) 各種講座等の実施

多くの方々に府立図書館を知ってもらい、広く利用していただくことを目的に、平成28年度から「府立図書館連続講座」を開催している。

京都で研究に携わっておられる方々に御自身の研究や本との関わりなど、様々な角度から語っていただく講座であり、講師のおすすめ本や、講演のテーマに沿った図書を司書が選書

して当日会場で展示するなど府立図書館の機能を活用した講演会である。令和元年度は6回実施した。

図書館セミナー（旧 図書館活用講座）についても平成30年度に引き続き土日祝日の開催とし、京都らしさを生かしたテーマを設定し、講演の後にワークショップ、周辺の近代建築巡りなど知的好奇心をくすぐる参加・体験型のセミナーとして実施した。

7月から8月の毎週水曜日（館内見学館を実施する第3水曜日を除く）には、「夏のDVD上映会」として、京都をテーマとした作品や幅広い年齢層向けの作品を上映した。

また、日頃見ることができない図書館のバックヤードや自動化書庫等も見学できる「館内見学会」を毎月第3水曜日（臨時休館中の3月を除く）に開催し、参加者からは「自動化書庫の大きさと設備に驚いた。」「市町村立図書館等を支援していることを初めて知った。」といった感想が多く寄せられている。

さらに、令和元（2019）年は京都府立図書館が岡崎の地に移転・開館して110周年になることから、平成30年度に引き続きミニ展示会や著名な落語家による落語会、京都大学大学院理学研究科花山天文台と連携した「宇宙と未来（4次元デジタル宇宙シアター）」等を実施し、府立図書館の利用促進に努めた。

(6) 近隣文化施設や大学、博物館、府立学校等との連携

近隣文化施設と大学の双方と連携した取組として、9月から10月にかけて京都岡崎魅力づくり推進協議会が実施した「秋のマステまつり@京都岡崎」において、京都市立芸術大学学生のデザインによる府立図書館オリジナルマスキングテープを制作した。岡崎エリアに立地する京都国立近代外美術館や京都観世会館など5施設が販売するオリジナルマスキングテープをすべて購入した方を対象にコンプリート賞としてプレゼントするなど、岡崎地域を盛り上げるイベントに積極的に参画した。

また、8月には京都女子大学と連携し、本や図書館が好きな学生や図書館司書を目指す学生が集う「京都女子大学図書館学研究会KWUICLS(クイックルズ)」と共催して「京女サロン」を開催、8月から9月にかけては京都大学総合博物館と連携した「第三高等学校の鉱物標本（三高標本）」の展示を実施した。更には11月に前庭において京都府立向陽高等学校及び京都府立桂高等学校の書道部による「書道パフォーマンス」を開催するなど、近隣文化施設、大学、博物館、府立学校等と連携した取組を積極的に実施した。

(7) 子どもへの読書活動支援事業・不登校児童生徒読書活動支援事業

様々な課題（生活困窮世帯・ひとり親家庭等）を抱える子どもが夢や希望を持って成長していけるように、昨年度に引き続き「子どもへの読書活動支援事業」を実施した。府立図書館が所蔵している子ども向けの図書約9万冊を、京都府が実施している事業の支援を受け、「こどもの居場所づくり」や「子ども食堂」に取り組んでいる団体に、1回あたり100冊以内6箇月以内で、搬送費を含め無料で図書を貸し出した。毎年利用が増加しており、平成30年度は13団体に1,467冊、令和元年度は15団体に1,780冊貸し出した。

更に9月には近畿初の取組として、学校外の教育支援センター・適応指導教室や京都府教育委員会認定フリースクール（以下「フリースクール」という。）に通所する児童生徒の読書活動の機会を充実していくために、市町村立図書館等と連携して「不登校児童生徒読書活

動支援事業」を新たに実施した。府立図書館ではフリースクールに1回あたり100冊6箇月以内で図書を貸し出す取組を実施し、令和元年度は1校のフリースクールに100冊の図書を貸し出した。

(8) 京都府立図書館協議会

外部有識者の知見を活用する協議会として、図書館法第14条から第16条の規定による「図書館協議会」を平成29年4月1日に設置した。

公募委員を含め10人の委員で構成し、委員の任期は2年である。

令和元年度は3回会議を開催し、平成30年度の事業計画の達成状況に対する外部評価、令和元年度の実施状況、令和2年度の事業計画案に加え、令和3年度からの新たなサービス計画についても協議いただいたところである。

(9) 図書館地区別研修（近畿地区）

文部科学省との共催で、令和2年1月28日（火）から1月31日（金）までの4日間、府立図書館に隣接する京都市勧業館みやこめっせを主会場として「これからの図書館サービス」をテーマに開催し、近畿一円の図書館職員を中心に研修を実施し、のべ317人が参加した。

また、研修の開催に併せ、みやこめっせ内において京都府立図書館特別展示を行い、府立図書館のPRと利用促進を図った。

3 令和元年度の主な利用状況等

区 分	平成30年度	令和元年度
総 資 料 数	1,303,989 冊	1,313,104 冊
開 館 日 数	※285 日	※273 日
入 館 者 数	273,208 人 (1日平均 959 人)	252,311 人 (1日平均 924 人)
新規利用登録者数	4,759 人	4,256 人
ホームページアクセス件数	406,413 件	423,902 件
個人貸出冊数	185,388 冊	175,068 冊
複写利用枚数	204,704 枚	183,324 枚
調査相談件数	16,940 件	15,384 件
マルチメディア利用者数	48,370 人	47,697 人
図書館等への貸出冊数		
・府内市町村立図書館等 (うち相互貸借)	37,068 冊 (22,779 冊)	39,223 冊 (22,544 冊)
(うち機関貸出)	(527 冊)	(751 冊)
(うち貸出文庫)	(13,762 冊)	(15,928 冊)
・他府県公立図書館・大学等	465 冊	404 冊
・学校図書室 (うち学校支援セット貸出)	24,962 冊 (19,617 冊)	28,293 冊 (23,255 冊)
(うち機関貸出)	(5,345 冊)	(5,038 冊)
子ども読書支援事業による貸出	1,467 冊	1,780 冊
不登校児童生徒読書活動支援事業による貸出(令和元年度～)	—	100 冊
備 考	※台風接近に伴う臨時休館(1日)除く	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館3月6日～3月22日(17日間)除く

京都市との返却本お預かりサービス

区 分	平成30年度	令和元年度
京都市の本を府で返却	2,170冊	2,326冊
府の本を京都市で返却	6,550冊	7,864冊

Ⅱ 図 書 館 資 料

1 総資料・年間収集資料

- (1) 総資料数 1,313,104 冊
 うち図書 1,006,839 冊
 うち逐次刊行物（図書換算） 306,265 冊
- (2) 年間収集資料数 図書（視聴覚資料を含む。） 16,683 冊
 逐次刊行物（購入分のみ） 380 タイトル

2 図書

- (1) 資料数 (単位：冊)

区 分	元 年 度 受 入 冊 数				元 年 度 末 資 料 数			
		購 入	寄 贈	その他		児童書	京都資料	外国語資料
閲覧・貸出用	12,116	9,348	2,420	348	877,345	47,068	26,602	19,470
図書資料	11,822	9,130	2,359	333	851,584	47,068	26,602	19,470
視聴覚資料	294	218	61	15	25,761	0	0	0
貸出文庫等	4,567	4,503	62	2	129,494	90,648	0	0
合 計	16,683	13,851	2,482	350	1,006,839	137,716	26,602	19,470

(注) 外国語資料には、児童書及び京都資料の外国語資料を含む。

- (2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数 (単位：冊・%)

分 類	元年度末冊数	(百 分 比)
0 総 記	42,608	(4.9)
1 哲 学	43,925	(5.0)
2 歴 史	94,868	(10.8)
3 社 会 科 学	187,695	(21.4)
4 自 然 科 学	55,096	(6.3)
5 技 術	62,233	(7.1)
6 産 業	45,752	(5.2)
7 芸 術	64,413	(7.3)
8 言 語	16,183	(1.8)
9 文 学	167,116	(19.0)
小 計	779,889	(88.8)
教 科 書	24,344	(2.8)
児 童 書	47,068	(5.4)
そ の 他	26,044	(3.0)
合 計	877,345	(100.0)

(3) 視聴覚資料・障害者用資料数

視聴覚資料

(単位：タイトル・点)

区 分	元年度末タイトル数 (点 数)
C D	818 (959)
C D - R O M	1,602 (1,725)
D V D	2,531 (2,533)
D V D - R O M	484 (484)
ビ デ オ テ ー プ	3,172 (3,183)
カ セ ッ ト テ ー プ	882 (2,705)
マイクロフィルム	125 (8,929)
マイクロフィッシュ	402 (3,730)
デ イ ジ ー	1,513 (1,513)
合 計	11,529 (25,761)

障害者用資料

(単位：タイトル・点)

区 分	元年度末タイトル数 (点数)	摘 要
大 活 字 本	3,825 (3,825)	
点 字 図 書	23 (283)	
カ セ ッ ト テ ー プ	882 (2,705)	上の表の「カセットテープ」の再掲
デ イ ジ ー	1,513 (1,513)	上の表の「デイジー」の再掲
合 計	6,243 (8,326)	

3 逐次刊行物

(単位：タイトル)

区 分	元年度購入数	既存受入数
新 聞	17	110
雑 誌	363	10,685
合 計	380	10,795

Ⅲ 利 用 状 況

- 1 開 館 日 273 日
- 2 入 館 者 252,311 人 (1日平均 924 人)
- 3 新規利用登録者 4,256 人 有効登録者累計 130,088 人
 { 京都市内 80.4 %
 { その他府内 9.0 %
 { 他府県 10.6 %
- 4 ホームページアクセス 423,902 件

5 個人貸出 (利用者登録を行っている個人への貸出)

- (1) 貸出者数 延べ 70,702人 (1日平均 259人)
- (2) 貸出図書数 175,068冊 (1日平均 642冊)
- (3) 借受提供数 (他の図書館等から資料を借り受けて利用者へ提供したもの)

(単位：冊)

借 受 先		借受冊数	摘 要
府内	市 町 村 立 図 書 館 等	1,066	地域別内訳は下表 (※)
府外	国 立 国 会 図 書 館	35	東京本館15 関西館20
	府 外 公 立 図 書 館	705	
	府 外 大 学 図 書 館 等	21	
	府 外 小 計	761	
合 計		1,827	

※市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地 域 区 分	借受冊数 (百分比)
京 都 市	125 (11.7)
乙 訓 地 域	81 (7.6)
山 城 地 域	383 (35.9)
南 丹 地 域	96 (9.0)
中 丹 地 域	148 (13.9)
丹 後 地 域	196 (18.4)
そ の 他	37 (3.5)
合 計	1,066 (100.0)

6 複写利用

(単位：枚)

区 分	利用枚数	摘 要
図 書 資 料	162,971	白黒 152,435 、カラー10,536
CD-ROM、外部データベース	5,712	
マイクロフィルム	4,331	
国立国会図書館デジタル化資料	9,381	
遠 隔 地 複 写	929	遠隔地等の利用者（非来館者）に対して、 当館所蔵資料の複写物を郵送するサービス
合 計	183,324	

7 調査相談等

(1) レファレンス (単位：件)

区 分	件 数
調 査 相 談	14,939
マルチメディア相談	397
市町村・府立学校からの調査相談	48
合 計	15,384

(2) 他館紹介状発行

17 件

(3) 他館所蔵資料複写

164 件

8 障害のある方へのサービス

(1) 対面朗読サービス (単位：人・時間)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	10	9	11	11	12	13	9	5	9	9	7	0	105
利用時間	20	18	22	22	24	26	18	10	18	18	14	0	210

(2) 点字・音声資料貸出 (単位：点)

資料区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
テープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
デイジー	50	46	17	17	23	22	22	24	29	23	14	17	304
合 計	50	46	17	17	23	22	22	24	29	23	15	17	305

(注) 他館への協力貸出を含む。

(3) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」利用 (単位：件)

区 分	件 数
コンテンツダウンロード利用	376
オンラインリクエスト受信（当館デジ資料等の他館送付）	39
オンラインリクエスト送信（他館デジ資料等の借受提供）	23
合 計	438

9 マルチメディア利用 (単位：人)

利 用 区 分	利 用 者 数
インターネット閲覧端末	39,121
C D - R O M 閲覧端末	122
A V (映像・音声)	3,915
外部データベース閲覧端末	3,218
マイクロフィルム閲覧端末	575
国立国会図書館デジタル化資料閲覧端末	746
合 計	47,697

10 図書館等への貸出

(1) 相互貸借 (単位：冊)

貸 出 先	貸出冊数	摘 要
府内市町村立図書館等	22,544	地域別内訳は下表(※)
他府県公立図書館・大学等	404	
合 計	22,948	

※市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地 域 区 分	貸出冊数	(百分比)
京 都 市	3,112	(13.8)
乙 訓 地 域	2,442	(10.8)
山 城 地 域	6,635	(29.5)
南 丹 地 域	3,108	(13.8)
中 丹 地 域	3,811	(16.9)
丹 後 地 域	3,116	(13.8)
京都学・歴彩館、大学等	320	(1.4)
合 計	22,544	(100.0)

(注) 市町村立図書館等を経由し小中学校へ貸し出した学校支援セット等は含まない。

(2) 機関貸出 (単位：冊)

貸出先	貸出冊数	摘要
府の機関	327	議会図書館、文化芸術課等
その他	424	
合計	751	

(注) 学校への機関貸出は別掲

(3) 一括貸出 (貸出文庫) (単位：冊)

区分	貸出冊数	摘要
貸出文庫	15,928	市町(組合)教育委員会、府立学校

※貸出内訳 (単位：冊)

貸出先	冊数	貸出先	冊数	貸出先	冊数
大山崎町	950	綾部市	1,500	京丹後市	1,370
相楽東部広域連合	2,480	福知山市	770	府立豊学校	180
亀岡市	300	宮津市	2,000		
南丹市	3,568	伊根町	2,810		

11 学校への貸出 (単位：冊)

区分	貸出冊数	
学校支援セット貸出	高等学校版	5,800
	市町(組合)立小中学校への貸出	120
	市町村立図書館への貸出	100
	府立高等学校への貸出	4,700
	府立特別支援学校への貸出	820
	総合教育センターへの貸出	60
	小中学校版	17,455
	市町(組合)立小中学校への貸出	13,420
	市町村立図書館への貸出	520
	府立高等学校への貸出	1,768
	府立特別支援学校への貸出	524
総合教育センターへの貸出	1,223	
小計	23,255	
機関貸出	市町(組合)立学校への貸出	71
	府立高等学校への貸出	4,659
	府立特別支援学校への貸出	283
	総合教育センター(北部支所含む)への貸出	22
	私立学校への貸出	3
	小計	5,038
合計	28,293	

(注) 学校支援のための学校以外への貸出を含む。

IV 事 業

1 市町村連携・市町村支援

府立図書館では、約131万冊の蔵書や各種のデータベースを揃え、府民の調査研究に役立つ資料や情報を提供することはもちろん、府立図書館と府内の市町村立図書館等・連携大学図書館の膨大な蔵書をインターネット上で瞬時に一括検索できる「京都府図書館総合目録ネットワーク（K-libnet）」のシステムを構築するとともに、市町村立図書館等の利用者が必要とする図書等を搬送する「連絡協力車」を巡回運行することにより、南北に長い府内全域に均質な図書館サービスを提供するよう努めている。

連絡協力車は、全ての市町村立図書館等及び府立学校、連携する大学図書館、国立国会図書館関西館、府立京都学・歴彩館、京都ライトハウス情報ステーション、京都府議会図書館を巡回している。

各図書館等の利用者は、システムで検索して見つけた他の図書館の図書を身近な図書館で利用することができ、連絡協力車で運ばれるため送料の負担もない。府内のどこに住んでいても、身近な図書館で高度な図書館サービスを楽しむことができる環境の充実に向けて、取り組んでいる。

(1) 京都府図書館総合目録ネットワーク

京都府図書館総合目録ネットワーク（以下「K-Libnet」という。）とは、京都府内の市町村立図書館等の相互協力を推進するため、当館がセンター館となって運営するウェブアプリケーション「K-Libnetシステム」を基盤とし、資料の相互貸借及び当館が運行する連絡協力車を含むネットワーク全体のことをいう。

大学図書館との連携は、令和元年度に試行の京都ノートルダム女子大学、京都橘大学が令和2年4月1日付けで正式に参加し、令和元年12月に京都府総合教育センター及び同センター北部研修所が参加した。また、府立学校においては特別支援学校が参加したことにより、府立図書館、府立京都学・歴彩館、全ての市町村立図書館等、京都ライトハウス情報ステーション、連携する大学図書館及び全府立学校、府総合教育センターがK-Libnetに参加することとなった。

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館の区分（平成29年4月改正規程）

区 分	摘 要
A参加館	K-Libnetシステム内の「京都府図書館総合目録」に自館の蔵書データを提供し、他の参加館と相互協力を行う館（すなわち、図書の所蔵データを「京都府図書館総合目録」で検索できる館） さらに、蔵書データの提供方法によって以下のとおり細分化する。
	横断検索館 総合目録からの横断検索に対応し、リアルタイムで自館の蔵書データを提供する館
	データ提供館 総合目録に定期的に自館の蔵書データを直接送信して提供する館
	CiNii検索館 CiNiiBooksに参加し、総合目録からCiNiiBooksへの横断検索によって自館の蔵書データを提供する館
B参加館	総合目録への自館の蔵書データの提供は行わないが、K-Libnetシステムを利用して他の参加館との相互協力を行う館
C参加館	府立の教育機関

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館一覧（令和2年4月1日現在）

図 書 館 ・ 読 書 施 設 等 の 名 称	A参加館			B参加館	C参加館
	横断検索館	データ提供館	CiNii検索館		
1 府立図書館 [センター館]	○				
2 府立京都学・歴史館	○				
3 京都市図書館(20館)	○				
4 向日市立図書館	○				
5 長岡京市立図書館	○				
6 大山崎町立中央公民館図書室		○			
7 宇治市中央図書館（3館）	○				
8 城陽市立図書館	○				
9 久御山町立図書館	○				
10 八幡市立八幡市民図書館	○				
11 京田辺市立中央図書館	○				
12 井手町図書館	○				
13 宇治田原町立図書館		○			
14 木津川市立中央図書館（3館）	○				
15 精華町立図書館	○				
16 笠置町図書室				○	
17 和束町体験交流センター図書室				○	
18 南山城村図書室				○	
19 亀岡市立図書館中央館	○				
20 南丹市立中央図書館（4館）	○				
21 京丹波町中央公民館図書室等（3館）		○		○	
22 綾部市図書館	○				
23 福知山市立図書館中央館（4館）	○				
24 舞鶴市立図書館（2館）	○				
25 宮津市立図書館	○				
26 与謝野町立図書館（3館）	○				
27 伊根町コミュニティセンターほっと館図書情報室				○	
28 京丹後市立図書館（6館）	○				

図書館・読書施設等の名称		A参加館			B参加館	C参加館
		横断 検索館	データ 提供館	CiNii 検索館		
29	京都ライトハウス情報ステーション				○	
30	京都先端科学大学図書館 (旧 京都学園大学図書館)		○			
31	京都教育大学附属図書館			○		
32	福知山公立大学メディアセンター			○		
33	佛教大学附属図書館			○		
34	京都府立医科大学附属図書館			○		
35	京都工芸繊維大学附属図書館			○		
36	京都府立大学附属図書館			○		
37	花園大学情報センター(図書館)			○		
38	京都ノートルダム女子大学図書館			○		
39	京都橘大学図書館			○		
40	京都府総合教育センター					○
41	京都府総合教育センター北部研修所					○
～	府立学校61校					○
102	(全50高等学校、全11特別支援学校)					○

(2) 連絡協力車

府内の市町村立図書館等との相互貸借図書や府立学校への図書の搬送等のため、毎週連絡協力車を運行している。

平成29年度から市町村立図書館等や連携する大学図書館への巡回を週2回に増やすとともに、連携する大学図書館の拡充に努めた結果、各市町村立図書館等や大学図書館における図書資料の取り寄せ利用の利便性の向上が図られ、相互貸借による貸出は、令和元年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館に伴うサービス停止の影響があったが、前年同様の実績(前年費99パーセント)を確保した。

なお、京都市図書館との間では双方の休館日を除く週5回、京都市のブックメール便が府立図書館に巡回している。

連絡協力車の巡回機関(令和2年4月1日)

区分	摘 要
公立図書館等	市町村立図書館・読書施設(全26市町村)
大学図書館	京都先端科学大学図書館(旧 京都学園大学図書館)、京都大学附属図書館、京都教育大学附属図書館、福知山公立大学メディアセンター、佛教大学附属図書館、京都府立医科大学附属図書館、京都工芸繊維大学附属図書館、京都府立大学附属図書館、花園大学情報センター(図書館)、京都ノートルダム女子大学図書館、京都橘大学図書館
連携機関	国立国会図書館関西館、府立京都学・歴彩館、京都ライトハウス情報ステーション、京都府議会図書館
府立学校等	府立学校60校(全高等学校、特別支援学校) 京都府総合教育センター、同センター北部研修所

図書の搬送実績

(単位：冊)

区	分	搬送冊数	摘要
府内相互貸借	当館 ⇒ 市町村立図書館等	22,544	
	市町村立図書館等 ⇒ 当館	1,066	
	市町村立図書館等 ⇔ 市町村立図書館等	32,954	
府立学校等機関貸出	当館 ⇒ 府立学校等	4,964	総合教育センター含む。
学校支援セット貸出	当館 ⇒ 府立学校・市町村立図書館等	23,255	直送を含む。
合	計	84,783	

(3) 市町村立図書館等職員研修等

市町村立図書館等に勤務する職員の資質向上のため、研修を毎年度実施している。

令和元年度は、図書館間の相互協力に関する初任者研修を5月に、レファレンス研修（初級）を7月に実施し、計45人の参加があった。

また、昨年度に試行した市町村立図書館等に勤務する職員が一層研修に参加しやすくなるよう府立図書館の職員が市町村立図書館等に直接出向く出前研修を、令和元年度から本格実施した。市町村立図書館等のニーズに応じた出前研修を9月から1月にかけて5回（5箇所）で開催し、近隣の図書館等の職員も含め計87人が参加した。

令和元年度 研修

日時	名称	内容	会場
5月23日(木)	相互協力初任者研修	市町村立図書館等との相互連携・支援事業等	府立図書館
7月12日(金)	レファレンス研修(初級)	レファレンス講習会	府立図書館
9月3日(火)	出前研修	レファレンス	向日市立図書館
9月26日(木)	出前研修	レファレンス	宇治市中央図書館
10月31日(木)	出前研修	レファレンス	宮津市立図書館
11月26日(火)	出前研修	本の修繕	舞鶴市立東図書館
1月31日(金)	出前研修	本の修繕	木津川市立中央図書館

また、文部科学省との共催で令和2年1月28日（火）から1月31日（金）までの4日間、府立図書館に隣接する京都市勧業館みやこめッセを主会場として「図書館地区別研修（近畿地区）を開催した。「これからの図書館サービス」をテーマに講師による講演や講義、府立図書館の所蔵本を使用したブックディレクターによる実習、ホテルから講師を招いた接遇研修などを行い、府内に加え近畿一円の図書館職員を中心に全国から延べ317人が参加した。

○ 令和元年度図書館地区別研修（近畿地区）

日 時	内 容
1月28日（火）	○文部科学省行政説明 総合教育政策局地域学習推進課図書館・学校図書館振興室 室長補佐 荒木 正寛 氏 ○基調講演 「これからの図書館サービスー2030年の図書館」 同志社大学大学院 教授 原田 隆史 氏
1月29日（水）	○講義 「海外の日本図書館と知のネットワークー国際日本文化研究センターの資料提供・情報発信とその意義」 国際日本文化研究センター図書館資料課 資料利用係長 江 上 敏 哲 氏 ○講義（府立図書館に移動しての演習含む。） 「届けにくい本の届け方 2020」 ブックディレクター （有）BACH（バッハ）代表 幅 允孝 氏
1月30日（木）	○講義 「子どもと本をつなぐ人々の流れの中で」 天理市立図書館 館長補佐 高橋 樹一郎 氏 ○講義 「図書館サービスと著作権」 国立国会図書館関西館アジア情報課長 南 亮一 氏 ○講義 「こんなことで困っていませんか？ー「図書館の自由」を学び直す」 沖縄国際大学 教授 山口 真也 氏
1月31日（金）	○講義 「コミュニケーションの基本とあり方」 京都ブライトンホテル 宿泊部ハウスキーピング課長 浪花 ゆき子 氏

このほか、令和元年度は各市町村立図書館等の職員巡回を年3回実施し、意見交換と情報共有に努めた。

(4) 京都府図書館等連絡協議会

「京都府図書館等連絡協議会」（略称：京 図 連 協^{きょうとれんきょう}）は、本府における図書館事業等の振興及び相互の協力を図ることを目的とする組織であり、全26市町村の図書館・読書施設をはじめとする府内の49施設で構成されている。

京図連協は、研修研究事業・相互協力事業・広報事業など、府内一円での図書館サービスの向上に向けた取組を毎年度実施しているほか、「京都図書館大会」の実行委員会に参画したり、京都府教育委員会と共催で「子ども読書本のしおりコンテスト」を開催したりするなど、他機関との連携にも努めている。

2 学校支援等

(1) 学校支援セット

「学校支援セット貸出」は、調べ学習や朝読書に役立つ図書を当館において整備し、環境や文化、仕事や防災等のジャンル・テーマごとに数十冊のセットにして府内の小・中学校及び府立学校に貸し出す取組で、平成20年度に開始した。毎年、セット内容の充実と利便性の向上に努めており、利用実績は年々増加している。平成30年度には啓発パンフレットを大幅に改善し、元年度当初に府内の小中高・特別支援学校に配布するとともに、京都府総合教育センターの協力を得てホームページに背表紙の写真や対象学年を取り入れるなど改善を図った。

また、令和元年度には京都府小学校教育研究会図書館教育部研究部会、京都府中学校教育研究会図書館教育部研究部会、京都府立高等学校図書館協議会司書部会、同協議会特別支援学校ブロックの意見を踏まえ、京都府総合教育センターと連携を図り、「新学習指導要領に対応した教員用セット」「特別支援教育の理解促進に役立つ教員用セット」「絵本セット」を新たに作成し、令和2年度当初から運用を開始した。

令和元年度は前年度比で約20パーセントの増加となった。(貸出冊数はⅢ-11参照)。

なお、学校の希望に応じて1冊単位で図書を貸し出す「機関貸出」についても、年々利用が増加してきたが、令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校が休校になったことから前年比約5%の減少となった。

学校支援セットの内容

区 分	ジ ャ ン ル
府立学校版	環境／医療・福祉／教育／文化／社会／仕事／自然科学／芸術／ヤングアダルト／新学習指導要領対応（教員用解説書等）／ミニ版セット／切り抜き速報／特別支援教育・絵本／特別支援教育・教員用
小中学校版	環境／古典／ことば・読み物／食育・健康／福祉・人権／国際理解／仕事／自然科学／防災／歴史・社会／国語教科書掲載作品／芸術・スポーツ／ヤングアダルト／新学習指導要領対応（辞典セット、教員用解説書等）／特別支援教育・絵本／特別支援教育・教員用

(2) 来館型調べ学習等

府立図書館の学校支援事業の一環として、小・中学生、高校生、大学生、専門学校生の見学や「調べ学習（探求型学習）」、府内の教職員の研修、市町（組合）教育委員会等の視察を受け入れている。

来館型調べ学習等の受入内容

主な対象	内 容 ・ ね ら い
小学生 中学生	【図書館見学】 府立図書館の閲覧室はもちろん自動化書庫等図書館内を案内し、約131万冊の蔵書規模を実感させるとともに、地元の図書館や学校図書館と府立図書館との役割分担について理解させる。
高校生 大学生 専門学校生	【調べ学習】 館内を見学し、図書館の利用法や資料の探し方の説明を受けた後、それぞれのテーマに沿って、府立図書館の資料を利用した調べ学習・探求型学習を行う。
教育委員会 教員 行政機関等	【視察等】 府立図書館の学校支援制度の活用を促進するため、教員を対象とする講座等に場所を提供し、併せて館内見学を実施するほか、教育委員会や行政機関の視察も受け入れている。

131万冊に及ぶ所蔵資料を使った調べ学習が可能のほか、図書館の利用方法や、データベースによる資料の探し方等も学ぶことができ、府立京都すばる高等学校をはじめ多くの学校や団体が来館した。平成30年度から大学との連携を図り調べ学習を積極的に受け入れ、平成30年度は前年度比4倍にあたる12回に、令和元年度は17回に増加した。令和元年度は小学生から大学生まで全て含めて43回834人が利用し、平成30年度とくらべ回数で9回、人数で327人の増となった。

来館型調べ学習等の受入実績

区 分	小・中学生	高校生	大学生	専門学校生	その他団体等	合 計
回／人	5回 159人	5回 125人	17回 363人	1回 14人	15回 173人	43回 834人

(3) 子どもへの読書活動支援事業

様々な課題（生活困窮世帯・ひとり親家庭等）を抱える子どもが夢や希望を持って成長していけるように、昨年度に引き続き「子どもへの読書活動支援事業」を実施した。府立図書館が所蔵している子ども向けの図書約9万冊を、京都府が実施している事業の支援を受け、「こどもの居場所づくり」や「子ども食堂」に取り組んでいる団体に、1回あたり100冊以内6箇月以内で、搬送費を含め無料で図書を貸し出した。毎年利用が増加しており、平成30年度は13団体に1,467冊、令和元年度は15団体に1,780冊貸し出した。

(4) 不登校児童生徒読書活動支援事業

令和元年9月には、近畿初の取組として、学校外の教育支援センター・適応指導教室や京都府教育委員会認定フリースクールに通所する児童生徒の読書活動の機会を充実していくために、市町村立図書館等と連携して「不登校児童生徒読書活動支援事業」を新たに実施した。府立図書館ではフリースクールに1回あたり100冊6箇月以内で図書を貸し出し、令和元年度は1校のフリースクールに100冊の図書を貸し出した。

3 調査研究・課題解決支援及び情報発信

(1) 大学連携

大学が所蔵する専門的な資料を府民が身近な図書館で閲覧できるように、また、府立図書館や市町村立図書館等が所蔵する資料を大学の学生や教職員が大学図書館で閲覧できるように大学図書館との連携を図り、京都府図書館総合目録ネットワーク（総合目録及び連絡協力車）を活用した所蔵資料の相互貸借を順次拡大している。

令和2年4月1日現在、下表の11大学と相互貸借を行っており、今後も大学図書館との連携の拡充を図ることとしている。

府内の大学図書館との相互貸借の実施状況（令和2年4月1日現在）

大学図書館名	開始時期等
京都先端科学大学図書館 (旧 京都学園大学図書館)	(従 前)
京都大学附属図書館	平成28年7月 相互貸借試行開始 平成29年10月 協定締結（本格実施）
京都教育大学附属図書館	平成29年3月 協定締結 平成29年4月 相互貸借開始
福知山公立大学メディアセンター	平成29年6月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
佛教大学附属図書館	平成29年9月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
京都府立医科大学附属図書館	平成30年2月 相互貸借試行開始 平成30年4月 協定締結（本格実施）
京都工芸繊維大学附属図書館	平成30年10月 協定締結（本格実施）
京都府立大学附属図書館	平成31年3月 相互貸借試行開始 平成31年4月 協定締結（本格実施）
花園大学情報センター（図書館）	平成31年3月 相互貸借試行開始 令和2年4月 協定締結（本格実施）
京都ノートルダム女子大学図書館	令和元年12月 相互貸借試行開始 令和2年4月 協定締結（本格実施）
京都橘大学図書館	令和2年1月 相互貸借試行開始 令和2年4月 協定締結（本格実施）

<京都図書館総合目録ネットワークを活用した相互貸借サービスのメリット>

- ・ 府立図書館のホームページから府内公共図書館だけでなく連携する大学図書館の所蔵資料も一括検索できる。
- ・ 府民が、大学図書館の所蔵資料を居住地に近い公共図書館に取り寄せて閲覧することができる。
- ・ 大学の学生や教職員等が、府立図書館や市町村立図書館等の所蔵資料（地域の郷土資料、専門書の多い大学図書館には所蔵されていない一般書等）を大学図書館の窓口で借りることができる。
- ・ 府立図書館が運行する連絡協力車を活用することにより、資料の送料が不要となる。

(2) 京都市図書館との図書相互返却

平成29年11月に開始した府立図書館で借りた図書を京都市図書館（20館）を通じて、京都市図書館で借りた図書を府立図書館を通じて返却できる「京都市図書館との返却本お預かりサービス」について、それぞれで借りた本を身近な図書館に返却できることから利用が拡大している。令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（3月）したが、年間で

前年度比17パーセント増となり、初めて10,000万冊を突破した。

(3) 館内見学会

毎月第3水曜日の午後2時から定期的に行っている「館内見学会」では、①「関西近代建築の父」と呼ばれ、京都市役所や同志社大学も手がけた武田五一により設計された旧館の外壁や外階段を保存修理して新館への建替を進めたこと、②都道府県立図書館では当館が初めて導入した自動化書庫と地下2階4層からなる電動積層集密書庫に、開架資料の10倍以上の膨大な資料を収めていること、③書庫の資料の中には、教科書や映画のシナリオなどのコレクションが含まれていること、④当館は、来館者向けサービスの他に、市町村立図書館等や学校への支援を行っていることなどを案内している。

令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館した3月を除く各月で合計11回実施し、96人の参加があった。

参加者からは、普段は見るできない図書館のバックヤードや自動化書庫等の見学を通じて「自動化書庫の大きさと設備に驚いた。」「古い教科書や雑誌など幅広いジャンルの資料があって驚いた。」「バックヤードの見学は貴重であった。府立図書館には様々な機能があり、府内の学校や図書館と連携しているのが印象的だった。」「市町村立図書館を支援していることを初めて知った。」などの感想が多く寄せられている。

(4) 図書館セミナー

図書館活用講座として実施していたが令和元年度から図書館セミナーとして、府立図書館の特色を生かしたテーマを設定し、講演に加えて、トークショーやワークショップ、周辺の建物見学の実施など、知的好奇心をくすぐる参加・体験型のセミナーとして実施した。

○ 「図書館セミナー」の実施状況（令和元年度）

開催日	内 容
6/15 (土)	「図書館の舞台裏、見ませんか？」 ・ 京都府立図書館のシナリオコレクションと世界の美しい図書館の紹介 ・ 映画「ニューヨーク公共図書館エクス・リブリス」のダイジェスト版上映 ・ 谷口 正樹氏（京都シネマ副支配人）と職員との舞台裏トーク ・ 府立図書館バックヤードツアー
7/20 (土)	「京菓子をデザインしてみよう」 講師：濱崎 加奈子氏 太田 達氏（有斐斎弘道館） ・ 京菓子の歴史やデザインについての講演 ・ 京菓子づくりの実演 ・ 色鉛筆を使用して京菓子のデザイン画の作成体験
8/18 (日)	「はじめての俳句」 講師：名村 早智子氏（俳人協会幹事）

開催日	内 容
10/14 (月祝)	「武田五一の建築巡り」 講師:川島 智生氏(京都華頂大学教授) ・講義:「武田五一と府立図書館」 ・見学:府立図書館、有鄰館、関西美術院、白河院

参加74人

○ 夏のDVD上映会

7月から8月の毎週水曜日(第三水曜日を除く)に、京都をテーマとした作品や、幅広い年齢の方にご覧いただける作品を上映するDVD上映会を開催した。

開催日	内 容
7/3	『京都人の密かな愉しみ 夏』<118分> 源 孝志/脚本・演出 2018年 ドラマとドキュメンタリーで「京都人が愛する京都」を描く。
7/10	『京都・祇園祭 至宝に秘められた謎』<129分> NHKエンタープライズ/[編] 2015年世界中から集まった「山鉾」を飾る至宝に秘められた謎とロマンに迫る。
7/24	『KYOTO 日本の心』<54分> 市川 崑/監督 1968年 京都の名所を美しい映像で綴りながら、禅の修行にいそしむ僧侶たちの生活を織り込む。豪華制作スタッフによる、京都への誘い。
8/7	『影絵劇 銀河鉄道の夜』<48分> 藤城清治事務所・ホリプロ/製作・著作 2007年 固い友情で結ばれた二人の少年が、“ほんとうの幸せとは何か…”をさがして銀河鉄道に乗り、星空の旅をしながら様々な人とめぐりあう、清らかなファンタジーの物語。
8/14	『西部戦線異状なし』(世界クラシック名画100撰集)<140分> ルイス・マイルストーン/監督・脚本 1930年 第一次大戦下のドイツで祖国のために戦場に赴いた少年兵が、戦争はかっこいいものではなく想像を絶する恐怖の世界であることを知る。アメリカ映画史に残る名作。
8/28	『京都御所 秘められた千年の美』<58分> NHKエンタープライズ/[編] 2015年 令和の時代を迎え、天皇の居所であった京都御所にも注目が集まる。平安から続く美や伝統を守る匠たちの類まれなる技が生かされた知られざる宝の数々と、四季折々に様々な表情を見せる御所の姿を、高精細4Kカメラで記録。

(5) 講演会等

多くの方々に府立図書館を知ってもらい、広く利用していただくことを目的に平成28年度から「府立図書館連続講座」を開催している。

京都で研究や社会活動に携わっておられる方々に御自身の研究や本との関わりなど、様々な角度から語っていただく講座である。講師のおすすめ本や、講演のテーマに沿った図書を司書が選書して当日会場で展示するなど図書館機能を活用した取組であり、令和元年度は6回実施した。

アンケートの結果から、市町村立図書館等で配布されたチラシや府民だより、地下鉄のポス

ター、インターネット上の情報等を見て参加されており、毎回好評を博しているところである。

○「府立図書館連続講座」の実施状況（令和元年度）

開催日	講 師 及 び 演 題
5/26 (日)	木村 大治 氏（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授） 「ボナンゴとツイッター～アフリカの声の世界からコミュニケーションを考える～」
6/23 (日)	有坂 道子 氏（京都橘大学文学部歴史遺産学科 教授） 「なにわの町人学者のユニークな世界」
7/28 (日)	加藤 真 氏（京都大学大学院人間・環境学研究科 教授） 「渚の自然史」
9/29 (日)	鷺見 朗子 氏（京都ノートルダム女子大学国際言語文化学部 教授） 「もうひとつのアラビアンナイト～北アフリカの物語」
10/20 (日)	小野 芳朗 氏（京都工芸繊維大学 理事・副学長） 「琵琶湖疏水と京都の近代化」
12/15 (日)	梅田 千尋 氏（京都女子大学文学部 教授） 「陰陽師たちの京都～最近の陰陽道史研究から」

延べ参加者数 520人

(6) 岡崎での開館110周年記念事業

令和元(2019)年は、京都府立図書館が岡崎の地に移転・開館して110周年になることから、大学、博物館、府立学校等と連携した展示会や講演会を実施するなど、府立図書館の利用促進に努めた。

開催日	実 施 内 容	参加者数
6/15 (土) (再掲)	「図書館の舞台裏、見ませんか？」 ・京都府立図書館のシナリオコレクションと世界の美しい図書館の紹介 ・映画「ニューヨーク公共図書館エクス・リブリス」のダイジェスト版上映 ・谷口 正樹氏（京都シネマ副支配人）と職員との舞台裏トーク ・府立図書館バックヤードツアー	応募90人 参加72人
8/6(火)～ 8/11(日)	「京女サロン～京都府立図書館を使った京女生による一週間～」 京都女子大学図書館研究会との共催による、ひとはこライブラリー、ビブリオバトル等京都府立図書館の本や資料を活用した展示やイベント。京都女子大学生による運営	84人
8/23(金)～ 9/25(水)	「京都府立図書館岡崎開館110周年記念 京都大学総合博物館所蔵 鉱物展示 府立図書館110周年ミニ展示」 ・京都大学総合博物館と連携し、鉱物標本（三高標本）やパネル等展示 ・京都府立図書館110周年ミニ展示（旧館当時の家具やパネル写真等展示） ・鉱物図書ミニコーナー	492人

開催日	実施内容	参加者数
9/22(日)	「宇宙と未来」(4次元デジタル宇宙シアター) 京都大学大学院理学研究科花山天文台の協力を得て、3Dメガネによる宇宙の立体映像	90人 (45人×2 2回満席)
11/2(土)	「京都府立図書館 落語会」(古典の日記念事業) 三代目林家染二師匠による古典落語をメインに、落語の解説等	応募510人 参加116人 (抽選)
11/4(月祝)	「書道パフォーマンス」 府立向陽高等学校及び桂高等学校書道部による図書館前庭での書道パフォーマンス	約350人
1/28(火)～ 1/31(金)	図書館地区別研修(近畿地区) 京都府立図書館特別展示 (於:みやこめッセ) ・パネル等による令和元年度の取組の紹介 ・京都女子大学との連携によるひとはこライブラリー展示 ・京都大学総合博物館との連携による鉱物展示	約350人

(7) 資料展示

「思いがけない本との出会い」を演出するため、京都に関することや季節の話題、時事問題等をテーマとして関連する当館の所蔵資料を一箇所に集めた展示を、通年にわたり実施した。

作成したブックリストは展示終了後も館内やホームページで提供し、レファレンス等にも活かしている(令和元年度の展示実績は下表のとおり(年度をまたぐ展示を含む。))

所蔵資料テーマ展示

展示タイトル	時期	協力機関・関連イベント等
1 階 コ ー ナ ー		
香り	4月～5月	
ストレス	5月～6月	
つながるいのち	6月	
海の日 -船、大海を拓く-	7月	
涼を呼ぶ	8月～9月	
人生100年時代を生きる	9月～10月	
かわいい	10月	
ミュシャとアールヌーヴォー	11月～12月	京都文化博物館特別展「みんなのミュシャ ミュシャからマンガへー線の魔術」
日本の紙文化	12月	
京都を巡る	1月～2月	
時間	2月	
最初的一步:コレクションの原点	3月～4月	京都市京セラ美術館と連携

展 示 タ イ ト ル	時 期	協力機関・関連イベント等
1 階 展 示 ケ ー ス		
京都府立図書館110周年	4月～6月	
京都府立図書館教科書コレクション ～旧制教科書から～	6月～8月	
京都府立図書館岡崎開館110周年 目録・分類から振り返る	9月～11月	
京都府立図書館 教科書コレクション No. 2 ～旧制中等教育編～	11月～1月	
当館所蔵「クルーガー文庫」について	1月～4月	
地 下 1 階 特 設 コ ー ナ ー 展 示		
レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500年	3月～5月	
外交と交渉をめぐる	5月～7月	
博物館へ行こう	7月～9月	第25回ICOM(国際博物館会議) 京都大会2019 (9/1～9/7)
古典を楽しむ～入門編～	9月～11月	古典の日 (11月1日)
アインシュタイン 生誕140周年	11月～1月	
外国からのお客さま	1月～2月	
自分の本を見つける ～図書ガイド本特集～	3/24～4/3	
ミ ニ コ ー ナ ー		
万葉集	4月～5月	新元号「令和」
ブラックホール	5月～6月	ブラックホールの撮影に成功
河井寛次郎	5月～6月	京都国立近代美術館展覧会 「川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎」
太宰治生誕110年記念 太宰治資料展	6月～7月	
オスマン帝国	6月～7月	京都国立近代美術館展覧会 「トルコ文化年2019 トル コ至宝展 チューリップの宮 殿 トプカプの美」
世界の図書館関連資料	6月～8月	「図書館の舞台裏、見ません か？」
起業を知る	7月～8月	日本政策金融公庫共催企画 セミナー・起業相談会
京菓子をデザインしてみよう	7月～8月	図書館セミナー
1945 京都の空襲	7月～8月	
京都大学総合博物館企画展・地の宝Ⅱ比企鉦 物標本」関連図書展示	7月～11月	・京都大学総合博物館企画展 ・京都大学総合博物館所蔵鉦 物展示 府立図書館110周年ミ ニ展示
事典で調べる	8月～9月	
はじめての俳句	8月～9月	図書館セミナー
聖地巡礼～舞台は京都岡崎～	9月～10月	京都国際マンガ・アニメフェア(京まふ2019)
こんな本、あります 第2回	10月～11月	

展 示 タ イ ト ル	時 期	協力機関・関連イベント等
ミニコーナー		
ノーベル化学賞 吉野氏	10月～11月	ノーベル化学賞受賞
岡崎周辺 武田五一の建築巡り	10月～11月	図書館セミナー
こんな本、あります 第3回	11月～12月	
円山応挙	11月～12月	京都国立近代美術館展覧会 「円山応挙から近代京都画壇へ」
古代史研究家 藪田嘉一郎氏著作 及び 松本清張著『火の路』等	11月～12月	
法教育フェスタ2019	12月～1月	龍谷大学法情報研究会主催 『法教育フェスタ2019』 (12/1 於：当館)
「子（ネズミ）あれこれ」	1月～2月	
こんな本、あります 第4回	1月～2月	
明智光秀	1月～2月	NHK大河ドラマ
ウイルスについて知る	3/24～4/3	新型コロナウイルス感染症
ねむり	3/24～4/3	
館長プロデュース連続講座コーナー		
ボナンゴとツイッター	5月～6月	
なにわの町人学者のユニークな世界	6月～7月	
渚の自然史	7月～8月	
もうひとつのアラビアンナイト ～北アフリカの物語	10月	
琵琶湖疏水と京都の近代化	10月～11月	
陰陽師たちの京都～最近の陰陽道史研究から	12月	
エントランス展示		
京都府立図書館のあゆみ（2）	3月～5月	◇1階展示ケース
データベースで官報の『元号』をみる	4月～5月	新元号「令和」
1945 京都の空襲	7月～8月	◇ミニコーナー
平成30年度京都府統計グラフコンクール入賞 作品	7月～9月	京都府政策企画部企画統計課 による展示
データベースで雑誌が読めます	8月～9月	
こんな本、あります	8月～10月	過去に紹介した約150点の所 蔵本を振り返り5回にわたり パネルで展示し紹介
「聖地巡礼～舞台は京都岡崎～」	9月～10月	◇ミニコーナー
こんな本、あります 第2回	10月～11月	◇ミニコーナー
こんな本、あります 第3回	11月～12月	◇ミニコーナー
こんな本、あります 第4回	1月～2月	◇ミニコーナー
2 階 コ ー ナ ー		
追悼 京マチ子さん	5月～7月	
「明智光秀」ミニコーナー	1月～2月	ミニコーナー
注) その他の展示と連動したエントランス展示は、表中◇で表示		

(8) ナレッジベース（知的な交流の場）での取組等

知的な交流の場としての活動拠点として、平成29年度に2階会議室を「ナレッジベース」と名付け運用を開始するなど、府立図書館では、様々な機関との連携を積極的に推進している。

情報の拠点としての図書館ならではの強み（豊富な図書資料・データベース等と、司書の専門性を活かしたレファレンス等）を活かして、岡崎魅力づくり推進協議会、民間機関、NPO等と連携した取組を実施した。

主な取組（令和元年度）

- ・ 京都府立図書館岡崎開館110周年記念 京都大学総合博物館所蔵鉱物展示及び府立図書館110周年ミニ展示（8月～9月）＜再掲＞
- ・ 京都府立図書館・日本政策金融公庫共催企画 セミナー・起業相談会
セミナー(令和元年7月、令和2年2月)
起業相談会(令和元年7月、9月)
- ・ 京都SKYシニア大学NSCコース（京都SKYセンター主催 令和元年11月に2回開催）
- ・ 京都府立図書館・龍谷大学法情報研究会共催企画「法教育フェスタ2019」
- ・ オープンデータソン（令和元年6月 諸国・浪漫オープンデータソン実行員会主催）
- ・ グラフィックファシリテーション勉強会（7回開催・NPO主催）
- ・ 岡崎ときあかりannex2019 クリエイターワークショップ・プロジェクトマップング入門講座（令和元年7月、8月）

等

(9) 地域連携

京都有数の観光地である岡崎に立地する当館は、「京都岡崎魅力づくり推進協議会」に加盟している。近隣の文化施設等と連携した様々な取組を展開、館内には近隣施設のチラシの配架、観光情報コーナーなどを設置している。特に、近接する京都市京セラ美術館、京都国立近代美術館等については、主な展覧会の時期に合わせて所蔵資料テーマ展示（前項参照）を行っているほか、過去の図録を集めたコーナーも設置している。

令和元年度は、9月から10月にかけて京都岡崎魅力づくり推進協議会が実施した「秋のマステまつり@京都岡崎」において、京都市立芸術大学学生のデザインによる府立図書館オリジナルマスキングテープを制作した。岡崎エリアに立地する京都国立近代外美術館や京都観世会館など5施設が販売するオリジナルマスキングテープをすべて購入した方を対象にコンプリート賞としてプレゼントするなど、岡崎地域を盛り上げるイベントに積極的に参画した。

(10) 行政支援サービス

平成30年度から京都府の各課・室・京都府総合教育センター及び同北部研修所への資料の貸出を行う行政支援サービスを開始した。連絡協力車を活用し、京都府庁内の各課・室は京都府議会図書館を窓口として資料を届けるとともに、京都府総合教育センター及び同北部研修所へは直送しており、令和元年度は3組織から327冊の利用があった。

(11) 広報

当館は明治の面影を残す「歴史ある図書館」として知られており、令和元年度もマスコミ各社へ積極的に新規事業やイベント、展示に関する情報提供を行った結果、数々の媒体に取り上

げられた。

当館のホームページにおいては、お知らせ欄を年間170回以上更新して、新規の取組やイベントの開催、図書館資料の紹介等を掲載するほか、令和元年7月には新たにSNS(Twitter)による若年層や新たな利用者に向けた情報発信を開始した。

また、令和元年5月には、京都府立大学の学生の発案による大学生向け啓発パンフレット「知っていますか？京都府立図書館のコト。」を作成し、公益財団法人大学コンソーシアム京都の協力を得て府内の各大学に配布するなど、利用促進を図った。

V 施 設 等

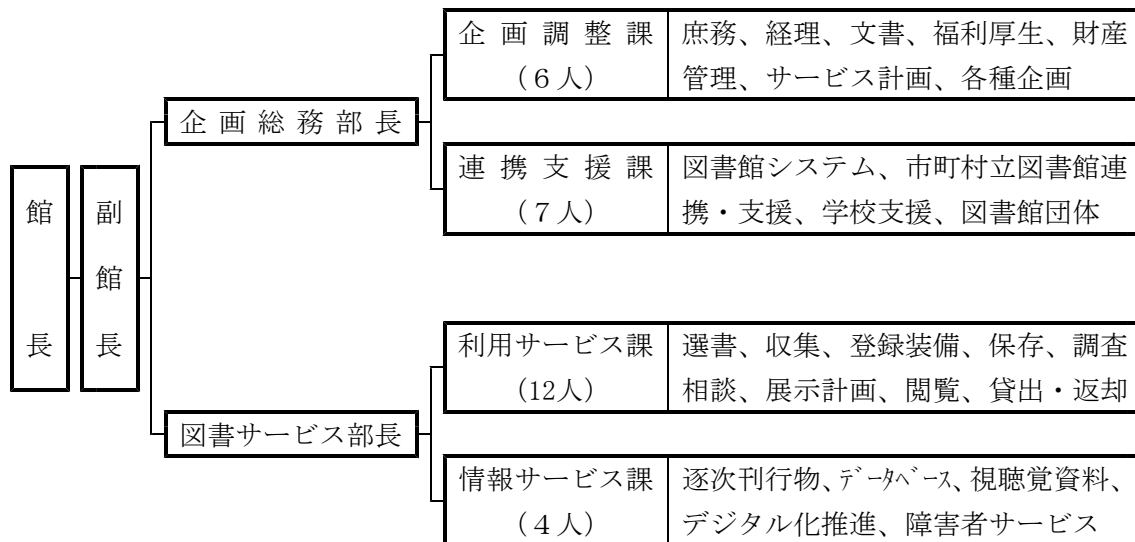
1 施設及び設備等

項 目	摘 要
所 在 地 等	〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町71番地 (平成28年9月30日改正条例公布、平成29年4月1日施行) TEL : 075-762-4655 FAX : 075-762-4653 ホームページ : https://www.library.pref.kyoto.jp/
開 館 日	平成13年5月11日(建替による新館開館。府立図書館設置は明治31年)
建 築 費	617,415万円(外構工事・設備・家具等を含む。)
収 蔵 規 模	約150万冊(令和元年度末資料数 約131万冊) ・書架(1,710㎡) 約10万冊 ・書庫(1,776㎡) 電動積層集密書庫 約100万冊 ・書庫(1,776㎡) 自動化書庫 約40万冊
利用者用端末 (平成31年4月現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書検索 当館蔵書検索用端末(OPAC)14台、他館蔵書検索用端末6台 ・データベース データベース閲覧端末9台、新聞記事データベース閲覧端末5台、 新聞デジタル版閲覧端末4台、CD-ROM閲覧端末2台 ・国会デジタル 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧端末3台 ・インターネット インターネット閲覧端末18台、インターネット等閲覧申込用端末2台 ・その他マルチメディア等 マイクロフィルム閲覧端末3台、映像ブース8台、音声ブース4台 障害者サービス用端末3台
開 館 時 間	火曜日～金曜日：午前9時30分～午後7時 土・日曜日、祝日：午前9時30分～午後5時
休 館 日	月曜日(祝日及び振替休日は開館、翌日が休館) 毎月第4木曜日(祝日は開館) 年末年始、特別整理期間

2 組織 <令和2年4月1日現在>

常勤職員 32人（常勤再任用1人を含む。）

非常勤職員 17人（館長1人・会計年度任用職員16人）



3 経費

(単位：千円)

科目	事項	元年度決算額	摘要
図書館費	人件費	283,891	
	資料費	44,094	図書38,336、逐次刊行物5,758
	事業費	165,307	外壁補修含む
	小計	493,292	
図書館費外	人件費	3,222	
	事業費	706	
	小計	3,928	事務局費/教育連絡調整費
合計		497,220	

Ⅵ 沿革

1 年表

明治31年(1898) 4月	府立京都図書館御苑内創立	昭和26年(1951) 9月	本館大閲覧室屋根修理着工休館
" 6月	業務開始	" 10月	本館蔵書一部知恩院倉庫に別置
33年(1900)	夜間開館開始	" 11月	本館大閲覧室安全開架式化
36年(1903) 10月	巡回図書館(貸出文庫)制度開始(昭和25年3月廃止)	" 12月	本館新体制で開館
38年(1905) 4月	児童室開設(大正14年3月閉鎖)	27年(1952) 6月	本館読書相談係設置
39年(1906) 6月	館外貸与規則制定告示	" 7月	園部地方分館開館(園部町立図書館内、昭和41年11月閉館)
" 11月	新館起工式		北桑田地方分館開館(京北町下中、昭和54年8月(京北農業協同組合弓削支所内)仮移転、同55年3月閉館)
42年(1909) 2月	新館竣工		木津地方分館開館(旧役場内、昭和29年7月(木津小学校内)、同38年5月(町民センター内)移転、同50年3月閉館)
" 3月	京都府立京都図書館規則告示	28年(1953) 4月	本館月曜日休館を実施
" 4月	新館開館	29年(1954) 2月	伏見分館新築工事着工
大正 8年(1919) 1月	本館図書分類目録編纂に着手	" 9月	京都府立図書館「善本目録」作製
11年(1922) 4月	貸出文庫を増設	30年(1955) 9月	青年学級文庫実施
昭和 3年(1928) 3月	帯出規程告示	32年(1957) 6月	中京分館(河原町分館改称)開館(烏丸庁舎内、昭和40年1月(京一商同窓会館)仮移転、同40年11月(京都府中京庁舎内)移転、平成13年3月閉館)
" 4月	個人貸出実施	35年(1960) 10月	中京分館館外貸出実施
" 6月	和漢図書分類目録分類表12冊作製	38年(1963) 3月	本館読書相談係・学生自由閲覧室・貸出文庫閉鎖、蔵書の一部を府立総合資料館へ移管
8年(1933) 10月	京都府中央図書館に指定	" 11月	本館日曜・土曜午後・夜間休館
16年(1941) 5月	児童室復活開室(昭和23年4月元貴賓室に移転)	" 12月	児童室土・日曜休室
22年(1947) 8月	館外貸出廃止	39年(1964) 1月	本館外装改修工事
23年(1948) 9月	読書ルーム開設(河原町丸善京都店地下)	" 5月	本館夜間・土曜午後再開(9時まで)、貸出室設置
24年(1949) 4月	読書相談開始		児童室館外貸出実施、土曜日開室
" 6月	河原町分館開館(河原町丸善京都店地下、昭和31年9月閉館)		伏見分館館外貸出実施
25年(1950) 2月	伏見分館開館(伏見信用金庫2階、昭和29年7月移転、同63年3月閉館)	" 7月	市内分館日曜日休館
" 6月	宮津地方分館開館(宮津町役場内、昭和28年4月(宮津市図書館内)、同32年10月(労働セツルメント内)、同39年5月(宮津市立図書館内)、同46年8月(新宮津市立図書館内)移転、平成9年3月閉館)	40年(1965) 7月	児童室に母親文庫設置
" 7月	綾部地方分館開館(綾部市立図書館内、昭和38年7月(市民センター内)移転、同41年9月閉館)	" 9月	京都府教育委員会基本規則一部改正
	峰山地方分館開館(奥丹後地方教育局内、昭和30年6月(丹波公民館内)、同37年9月(丹波小学校内)、同55年4月(峰山町中央公民館内)移転、平成9年3月閉館)		教育庁係等設置規程一部改正により課制施行
" 8月	学生自由閲覧室新設	41年(1966) 11月	自動車文庫命名式(蜷川知事「あゆみ号」と命名)
" 11月	京都府立図書館設置条例公布(条例第62号)		移動図書館事業開始(平成2年12月終了)
昭和26年(1951) 4月	上京分館開館(北区紫郊会館内、昭和31年5月(桜谷文庫内)移転、同51年5月閉館)	42年(1967) 7月	本館修繕工事
		" 9月	貸出室移転再開

昭和44年(1969)12月	本館夜間閉館時間を7時に変更	平成 2年(1990) 3月	「点字・録音図書目録(点字版)」刊行
46年(1971) 8月	本館貸出室の図書を閲覧室に統合、第2閲覧室開室 貸出方式をブラウン方式に切替	〃 4月	連絡協力車事業本格実施
48年(1973) 4月	上京分館外貸出実施	〃 6月	機構改正により本館は4課組織に
50年(1975) 3月	身体障害者用便所・スロープ新設	3年(1991) 3月	本館模様替内装工事(受付カウンター・新聞雑誌室等配置換)
〃 5月	本館(閲覧室・中央カウンター・新聞雑誌室開設)内装工事 本館閲覧室を完全開架式に切替	〃 6月	マイクロリーダプリンターのサービス開始
51年(1976) 4月	本館閲覧用目録作成に着手	〃 8月	「連絡協力車だより」発刊
〃 6月	京都府図書館等連絡協議会発足、府立図書館に事務局を置く	4年(1992) 9月	毎月第2土曜日 児童室 午前9時半から開室開始
〃 7月	児童室改修工事	5年(1993) 3月	「京都府の公共図書館 1992年版」刊行
53年(1978) 3月	本館改修工事(外装・屋根葺替・玄関・防災設備) 本館閲覧用目録整備完了	6年(1994) 3月	「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会、京都府立総合資料館と共同刊行
54年(1979) 3月	本館書庫改修工事	7年(1995) 2月	阪神・淡路大震災(1月17日)による本館一部被害の補修・補強工事実施
〃 4月	国会図書館からの図書貸出制度発足 本館自習室閉鎖	〃 5月	本館老朽化による安全対策のため館内模様替え(事務室の1階への移動等)実施。5月1日から2箇月間臨時休館(7月3日再開館)
〃 11月	「専門情報機関要覧」刊行	〃 8月	連絡協力車北部コースの運行を月2回に拡充(全市町村月2回運行)
56年(1981) 9月	移動図書館用電動集密書架設置	〃 9月	一般図書室の天井一部損傷による補修工事実施。9月18日から臨時休館(10月16日再開館)
〃 12月	伏見分館改修工事	〃 12月	京都府社会教育委員会が京都府教育委員会教育長に「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について(提言)」を提出
57年(1982) 7月	障害者サービス(対面朗読)実施	8年(1996) 3月	平成8年度当初予算に府立図書館整備費を計上
58年(1983) 2月	生涯教育推進事業として読書推進講座実施	〃 9月	新府立図書館建設基本計画の概要を発表 9月補正予算に基本設計費等を計上
〃 3月	「京都府の公共図書館」刊行 伏見分館ブックポスト設置	9年(1997) 3月	平成9年度当初予算に実施設計費等を計上
〃 6月	図書館協力貸出本格実施	〃 4月	新館整備のため本館を休館
〃 7月	新着図書案内発行	〃 9月	本館仮施設(京都市下京区、旧中小企業総合指導所)へ移転完了
59年(1984)12月	連絡協力車試験的運行開始(2コース)	10年(1998) 3月	府立図書館解体工事及び壁面(東側前面)保存工事完了 平成10年度当初予算に新館建設工事費等を計上
60年(1985) 7月	国立国会図書館とのオンライン利用実験実施	〃 7月	総合資料館蔵書との一体的データ化作業開始
61年(1986) 8月	京都府教育委員会教育長から「生涯学習社会を展望する京都府の図書館のあり方」を京都府社会教育委員会へ諮問		
〃 12月	昭和61年度全国公共図書館参考事務研究集会開催		
62年(1987)10月	国立国会図書館とオンライン実施		
63年(1988) 3月	「京都府の公共図書館1987年版」刊行		
〃 10月	図書館資料広域貸出事業開始 「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会と共同刊行		

平成10年(1998) 9月	本館事務室の再移転(旧中小企業総合指導所から隣接の旧女子高等技術専門校へ)	平成21年(2009) 3月	所蔵音声資料の音声目録CD-ROM(デジ版)作成、配布
〃 11月	新府立図書館新築工事起工式	〃 6月	府立図書館「岡崎」100周年記念事業(小展示・パネル展等)開催(～22年3月)
11年(1999) 2月	平成10年度近畿地区公共図書館研修開催	〃 9月	府立図書館「岡崎」100周年記念パンフレット作成
〃 3月	平成11年度当初予算に新築工事費等計上	〃 11月	国立国会図書館関西館との連携(連絡協力車の運行)
〃 6月	「日本目録規則1987年版改訂版」「日本十進分類法新訂9版」「日本著者記号表改訂版」採用	22年(2010) 4月	学校支援セット貸出小中用CD-ROM目録を作成、配付
12年(2000) 3月	平成12年度当初予算に新築工事費等計上	〃 9月	京都府立医科大学附属図書館と連携した府民講演会開催
〃 5月	国立国会図書館総合目録ネットワーク参加	〃 10月	新着図書お知らせサービス開始
〃 10月	新館竣工	23年(2011) 4月	祝日開館を実施
〃 11月	仮施設から新館に移転、開館準備作業本格化	〃 8月	学校支援ポータルサイト開設
	「京都府図書館総合目録ネットワーク運営規程」施行(1日)	〃 12月	館内全面禁煙の実施
13年(2001) 2月	仮施設及び府立総合資料館からの図書資料移転終了	〃 12月	京都大学研究者等と連携したサイエンスイベント開催
〃 4月	機構改正により2課制(総務課：2係、資料課：4担当)施行	24年(2012) 4月	子ども読書本のしおりコンテスト実施
	京都府立図書館の管理運営に関する規則(平成13年京都府教育委員会規則第1号)施行	〃 8月	府立図書館サービス計画策定
〃 5月	京都府立図書館個人貸出規程等、各種規程施行	〃 11月	図書館活用講座実施
	開館式	25年(2013) 3月	府立図書館のシンボルマークと和文ロゴタイプ作成
	京都府図書館総合目録ネットワークのインターネット発信開始	〃 7月	24年度図書館評価(試行)を社会教育委員会で報告
	一般開館	〃 9月	学校支援セットの府立高校(非巡回校)への直送実施
	連絡協力車の毎週運行開始	26年(2014) 9月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始
〃 6月	京都府図書館総合目録ネットワーク運用開始		府民利用施設のあり方検証において「見直すべき施設」に区分
14年(2002) 4月	「子ども読書絵てがみコンテスト」実施	27年(2015) 4月	連絡協力車の全府立高校への巡回開始
15年(2003) 2月	館内完全分煙実施		サビエ／視覚障害者情報総合ネットワークのサービス開始
18年(2006) 4月	インターネット貸出待ち登録サービス開始	〃 6月	府立図書館サービスの充実に向けた検討会議設置
〃 5月	電話による貸出延長サービス開始	28年(2016) 3月	図書館システム更新
〃 12月	京都府図書館総合目録ネットワークに府内全市町村が参加		府立図書館基本方針及び府立図書館サービス計画策定
19年(2007) 3月	取寄せ申込みeサービス開始	〃 4月	機構改正により部課制(企画総務部:2課、図書サービス部:2課)施行
〃 4月	連絡協力車の一部の府立高校への巡回開始		カーリル社と連携協定締結
20年(2008)	源氏物語千年紀記念事業(小展示・パネル展等)開催	〃 7月	京都大学附属図書館との相互貸借試行開始(29年10月本格実施)
5月	インターネット貸出延長サービス開始	〃 9月	図書館協議会設置のため、京都府立図書館設置条例全部改正、京都府立図書館条例公布(29年4月1日施行)
〃 9月	学校支援セット貸出開始		

平成28年(2016)11月	京都府図書館総合目録ネットワークシステムの充実を図る産官学連携プロジェクト開始	平成31年(2019)4月	京都府立大学附属図書館との相互貸借本格実施
〃 12月	京都府立図書館協議会委員の第1期委員公募開始	令和元年(2019)7月	SNS(Twitter)による情報発信を開始
29年(2017)2月	府内図書館等館長会議開催	〃 9月	不登校児童生徒読書活動支援事業を開始
〃 3月	全国の公立図書館初のクラウドソーシング開始	2年(2020)3月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
〃 4月	京都教育大学附属図書館との相互貸借に関する連携協定締結(運用29年4月～)	〃 4月	京都花園大学情報センター(図書館)、京都ノートルダム女子大学図書館情報センター、京都橘大学図書館との相互貸借本格実施
〃 4月	京都府立図書館協議会を設置		
〃 10月	連絡協力車の市町村立図書館等への巡回を週2回に増便		
〃 11月	知的な交流の場「ナレッジベース」の試験運用開始		
〃 12月	子どもへの読書活動支援事業開始		
	京都市図書館との「本の相互返却サービス」の試行開始		
〃 12月	マイナンバーカードを活用した「図書館共同利用システム」実証事業に参画		
30年(2018)4月	福知山公立大学メディアセンター、佛教大学附属図書館、府立医科大学附属図書館との相互貸借本格実施		
	府議会図書館を窓口とした京都府庁への図書資料の配送の試験運用開始		
〃 10月	京都工芸繊維大学附属図書館との相互貸借本格実施		
〃 11月	京都市図書館との「本の相互返却サービス」を「京都市図書館との返却本お預かりサービス」として本格実施		
31年(2019)2月	岡崎での開館110周年記念事業実施		
〃 3月	京都府立大学附属図書館、花園大学情報センター(図書館)との相互貸借試行開始		

2 歴代館長

氏 名	在 職 期 間
三宅 五郎三郎	明治31年4月 ～ 明治33年3月
原田 千之助	明治33年3月 ～ 明治33年12月
中道 貫一 (館長心得)	明治34年1月 ～ 明治34年2月
三宅 五郎三郎	明治34年4月 ～ 明治37年3月
湯 浅 吉 郎	明治37年3月 ～ 大正5年5月
北 畠 貞 顕	大正5年10月 ～ 昭和15年11月
内 藤 乾 吉	昭和15年11月 ～ 昭和22年7月
西 村 精 一	昭和22年7月 ～ 昭和38年10月
相 馬 利 雄	昭和38年10月 ～ 昭和45年8月
岩 崎 彰 之 助	昭和45年8月 ～ 昭和47年4月
吉 川 博 明	昭和47年4月 ～ 昭和48年6月
庄 林 二 三 雄	昭和48年6月 ～ 昭和49年4月
宮 本 英 男	昭和49年4月 ～ 昭和50年3月
布 村 忠 雄	昭和50年4月 ～ 昭和55年4月
長 谷 川 啓 司	昭和55年4月 ～ 昭和56年4月
浜 辺 一 彦	昭和56年4月 ～ 平成元年7月
上 田 将 (本庁指導部長兼任)	平成元年7月 ～ 平成元年9月
林 芳 男	平成元年9月 ～ 平成4年4月
柴 田 實	平成4年4月 ～ 平成6年5月
高 木 多 喜 男	平成6年6月 ～ 平成8年3月
五 十 嵐 一 郎	平成8年4月 ～ 平成10年3月
西 山 隆 史 (本庁指導部長兼任)	平成10年4月 ～ 平成10年5月
小 山 雄 一	平成10年6月 ～ 平成13年3月
中 里 隆 憲	平成13年4月 ～ 平成16年3月
津 守 俊 一	平成16年4月 ～ 平成19年3月
松 田 定	平成19年4月 ～ 平成21年3月
勝 間 喜 一 郎	平成21年4月 ～ 平成24年3月
宮 野 文 穂	平成24年4月 ～ 平成28年3月
丸 川 修	平成28年4月 ～

京都府立図書館基本方針

(平成28年3月改定)

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の知的遺産である出版物を中心とした文化資源を適切に収集・保存し、活用・発信する場です。

京都府立図書館は、この理念を踏まえ、変化の激しい社会において、新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指します。

I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

各公立図書館・学校図書館等の活動を支援しつつ、各館と協力することによって、府内の図書館サービスを充実させます。また、府民に的確に情報を提供するため、各公立図書館・学校図書館等と大学図書館等をつなぎ、府内の各種図書館のハブとしての機能を果たします。

II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます

府立図書館の役割に応じた選書を行いつつ、多様な文化資源に関する情報を取り扱います。また、様々な情報を求める人々が利用しやすい図書館サービスを提供し、高度な知的要求に応えます。さらに100年を超える府立図書館の歴史と文化施設が集中する岡崎という立地を最大限に活かします。

III 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

多様な議論を展開しながら新たな情報を創造していく場を設定し、提供することにより、各機関・団体と連携し、様々な課題の解決につながる調査研究を支援します。あわせて、その成果を発信する拠点となり、こうした活動が各地で展開されるよう働きかけます。これらを通じて、京都の文化の創造と府内各地域の活性化に寄与します。

京都府立図書館資料収集方針

(平成28年12月改正)

京都府立図書館は、創設以来百年を超える収集資料を継承し、府内の中核的図書館として、現在及び将来の利用者のために、多様かつ的確な情報により資料を選定し、収集し、保存する。

1 基本的な考え

- (1) 府民の調査研究の拠点及び生涯学習を支援する図書館としてふさわしい資料を収集する。
- (2) 府内図書館ネットワークのセンターとして、市町村立図書館及び学校図書館振興のための資料を収集する。
- (3) 京都府立京都学・歴彩館をはじめとする文化施設との連携を考慮し、資料を収集する。
- (4) 多様な意見のある事柄については、幅広い観点から資料を収集する。

2 収集する資料

- (1) 収集する資料の種類は、図書、逐次刊行物、映像・音響・電子資料、障害者向け資料等とする。
- (2) 収集部数は原則として1部とする。
- (3) 収集した資料は、原則として永年保存とする。

3 収集方法

購入、寄贈等により収集する。

4 資料収集の協議

重要事項については、収集委員会により協議する。

5 資料選定の具体的基準

収集する資料の選定については、別に定める資料収集基準による。

京都府立図書館 サービス計画を策定しました！

京都府立図書館では、「京都府立図書館サービス計画（平成 28 年度～平成 32 年度）」を策定しましたので、お知らせします。

この計画は、広く府民を対象としたアンケート(※)を実施し、あわせて外部有識者で構成する検討会議でいただいた御意見を反映して策定したものです。

京都府立図書館は「図書館」の新たな可能性を切り拓きます

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の知的遺産である出版物を中心とした文化資源を適切に収集・保存し、活用・発信する場です。

この理念を踏まえ、京都府立図書館は、従来からの市町村支援機能と調査研究支援機能を十分に発揮しつつ、府立図書館が持つ資源を最大限活用して、新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となります。

現在、図書館をはじめ、文化・教育を取り巻く環境は、激しく変化しています。そのなかで、府立図書館が十分に存在感を発揮するためには、常に斬新なサービスに挑戦し、新たな価値を造り出す必要があると考え、府民に期待される存在となることを目指します。

サービス計画から ピックアップ！

◆ サービスデザインチームの設置

職員と図書館活動に関心のある外部の団体・個人によるサービスデザインチームを設置し、実験的なサービスや新しい事業に取り組みます。その成果を広く公開し、波及させることで、新事業の芽を作ります。

◆ 歴史ある図書館の演出と利用しやすい空間の構成

日本で最初の公立の図書館である「集書院」の伝統を引き継ぐ府立図書館の歴史を感じられる演出をするとともに、来館者が求める情報をスムーズに得られるよう案内します。

◆ 知的な交流の場の創設

多様な人々が互いに学び合い、対話・議論を行うことができる「知的な交流の場」を設置し、京都で活動する様々な個人や団体をつなぎ、課題を解決する拠点となります。

◆ 行政支援サービスの推進による府民への貢献

行政機関が課題解決に向けた施策を企画立案するためには、的確で幅広い情報を入手することが必要です。このため、府立図書館が行政支援サービスを行うことを通じて、府民への新たな貢献を目指します。

※府立図書館に関する府民アンケート調査

調査期間：平成 27 年 7～8 月

調査対象：住民基本台帳からの無作為抽出による郵送方式（4,000 名対象→有効回答 1,814 名）

図書館ホームページ上での WEB 方式（回答 680 名）

「京都府立図書館サービス計画(平成 28 年度～平成 32 年度)」

(令和 2 年度)

概 要

背景

かつて認識されていた「図書館像」は、貸出サービス中心のものです。現在、府立図書館はじめ各図書館は、社会の要請や利用者の求めに応じて、地域の実情に即した新しい形のサービス運営に努めています。

さらに、ICTの発展による情報の形態の多様化と、書籍をめぐる状況の激変のなかで、府立図書館も新たな役割を模索しています。

基本方針Ⅰ

府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 府内の各図書館とのネットワークの強化 | 3 学校支援の充実 |
| 2 市町村立図書館等への支援 | 4 子ども読書活動の支援 |

基本方針Ⅱ

多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 5 多様な資料の収集・整理・提供 | 11 非来館サービスの充実 |
| 6 十分な収蔵空間の確保による資料の的確な保存 | 12 障害者サービス等の拡充 |
| 7 資料館・博物館・大学等と連携した文化資源の情報発信 | 13 「歴史ある府立図書館」の演出 |
| 8 電子図書館サービス・デジタルアーカイブなどへの展開 | 14 入りやすく利用しやすい空間の構成 |
| 9 所蔵資料紹介・レファレンス業務の充実 | 15 職員の育成 |
| 10 来館者への貸出サービス等の充実 | |

従来の機能を核に

基本方針Ⅲ

議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

新たな
挑戦

- | |
|----------------------------|
| 16 「知的な交流の場」の創設 |
| 17 府立図書館の見える化の推進 |
| 18 各種講座の実施と情報発信 |
| 19 行政支援サービスの推進による府民への貢献 |
| 20 サービスデザインチームによる新たな取組への挑戦 |

※ 3つの基本方針/20の項目/64の具体策 により、斬新なサービスを開発・提供

事業概要（令和元年度のまとめ）

令和2年10月発行

発行者 京都府立図書館

〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町

TEL (075) 762-4655 (代)

FAX (075) 762-4653

URL <https://www.library.pref.kyoto.jp/>

